

京都の生協

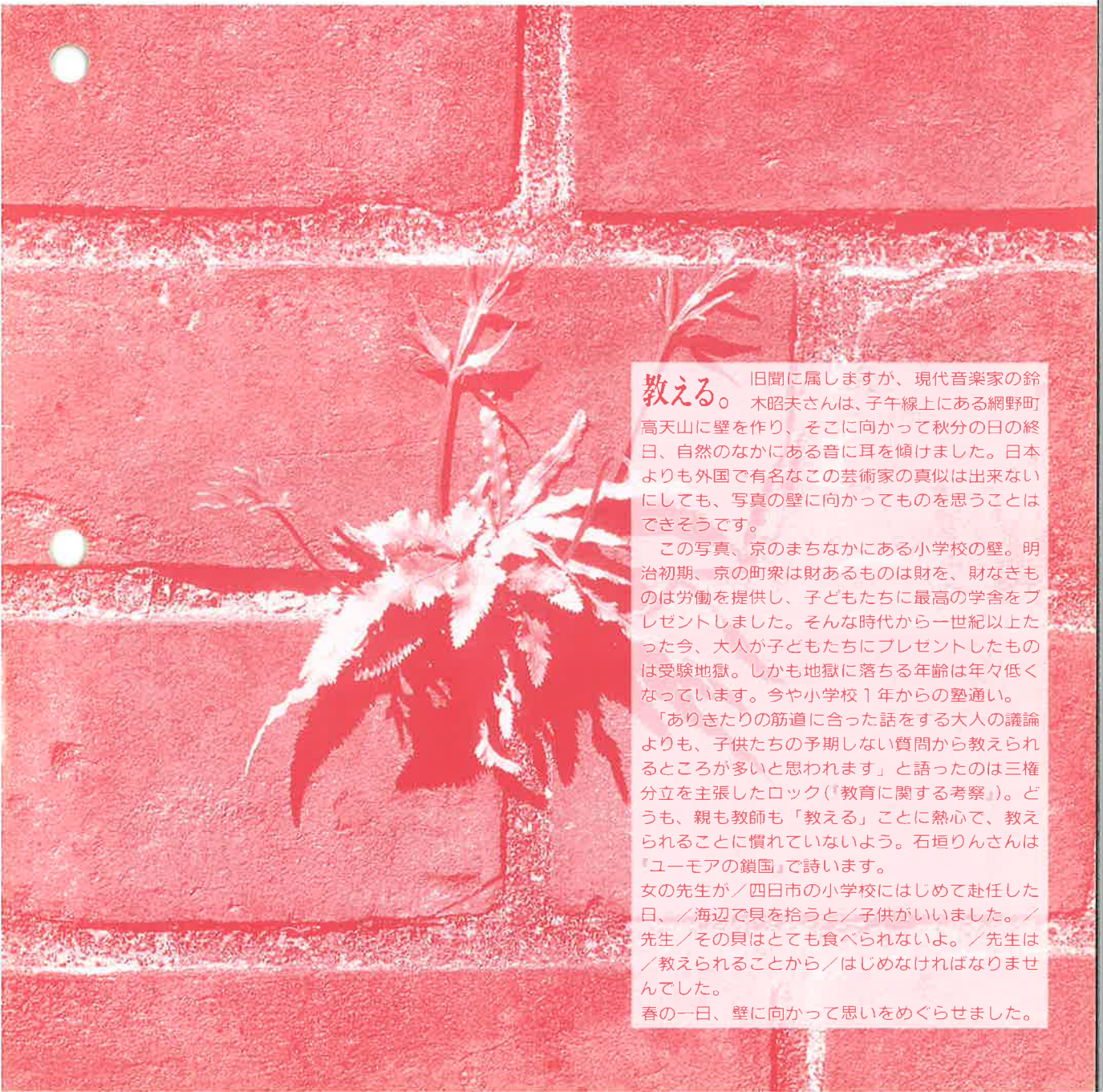
NO. 17

カメラルポ●京都生協第1回「生活文化博」
ICA大会・92年に東京で開催
ゴルフ場問題で水と緑を考えるつどい
連載——「京の水」

発行 京都府生活協同組合連合会

April ● 1990

〒604 京都市中京区烏丸二条角 西和ビル6F
TEL.075-251-1551 FAX.075-251-1555



教える。 旧聞に属しますが、現代音楽家の鈴木昭夫さんは、子午線上にある網野町高天山に壁を作り、そこに向かって秋分の日の終日、自然のなかにある音に耳を傾けました。日本よりも外国で有名なこの芸術家の真似は出来ないにしても、写真の壁に向かってものを思うことはできそうです。

この写真、京のまちなかにある小学校の壁。明治初期、京の町衆は財あるものは財を、財なきものは労働を提供し、子どもたちに最高の学舎をプレゼントしました。そんな時代から一世紀以上たった今、大人が子どもたちにプレゼントしたものは受験地獄。しかも地獄に落ちる年齢は年々低くなっています。今や小学校1年からの塾通い。

「ありきたりの筋道に合った話をする大人の議論よりも、子供たちの予期しない質問から教えられるところが多いと思われます」と語ったのは三権分立を主張したロック（「教育に関する考察」）。どうも、親も教師も「教える」ことに熱心で、教えられることに慣れていないよう。石垣りんさんは『ユーモアの鎖国』で詩います。

女の先生が／四日市の小学校にはじめて赴任した日、
／海辺で貝を拾うと／子供がいました。
／先生／その貝はとても食べられないよ。
／先生は／教えられることから／はじめなければなりません。

春の一日、壁に向かって思いをめぐらせました。

随 想

「百歳まで生きる会」はいかが？



京都医療生活協同組合組合長 中野 信夫

かぞえて八十歳になった私は、ここ二年仕事の量を減らしてもらった。毎朝、目が覚めてから三十分位もベッドの中で、あれやこれやの考え事をするようになった。天気の良い朝などこの三十分色々な思いつきが、次から次に浮んでくる。時にはステキなひらめきもあったりして、楽しい一時である。

今朝のこの三十分間には、京都医療生協の「健康大学」の講演テーマが、次から次へと、浮び上ってきた。①胃癌、腸癌、前立腺癌、など多発する癌の最新の治療と予防。……これは私にとっても大きな関心事である、②高血圧の予防とコントロール、③虚血性心疾患の知識と救急法……これも私の知りたいところ、④糖尿病と上手につきあう方法、⑤精神的ストレスの克服法、⑥ボケと寝たきり老人は減らすことが出来る（スエーデンの老人対策）、⑦救急車が来るまでの救命術、⑧老人向きの食事と運動、⑨養生訓の今と昔、⑩高齢者から直接健康法を聴く、⑪衛生学者のすすめる長寿法、⑫夏の養生法、冬の養生法等々といくらかも湧いてくる。演題にピッタシの講師を探すのが重要な仕事になりそうだ。

実は昨年九月の敬老の日の新聞で「今年は百歳以上の高齢者の数が三千人を越えた！」という記事を見て私は思いをめぐらせた。「この調子でゆけば私も九十歳位までは生きられるかも知れん。イヤ、ヒョットすと九十五も可能かも……」。「今から十年もすれば、日本も、そして世界も随分変わるだろうな、何しろ変化のテンポは加速度的に速まっているからナ」とも考えた。

こういった長寿願望は、毎朝のベッドの中の思索を通じて遂に『百歳まで生きる会』構想にまで発展したのだが、これを医療生協の理事諸君に話したところ大半の人がニタニタするだけだった。私はこれにもメゲず医療生協の組合員交流集会でこの意見を披露して見たところ、二、三共鳴者が出てきたので、今のところ多少勇気を取り戻しているのである。

健康法などというものはわかっていても実行が継続出来ずに終ることが多いのだが、サークルや、同好会を作って、集団の力と遊び心で励まし合うことが中断しないためのコツではなからうか？

何とか京都医療生協が「百歳まで生きる会」の構想をとりあげてくれるように今後もネバってみたいと思っている。

CONTENTS

- ①カメラルポ／2日間で5万人が参加「京都生協生活文化博」
- ③高齢者眼科検診を市費でおこなえるように
- ④「食生活の自立」めざして——大学生の食生活フォーラムひろく
- ⑥ICA大会・92年に東京で開催
- ⑧TOPICS／新病棟地下に生協店舗(府立医大生協)／4月22日はアースデー
- ⑨入学時の必要経費は？——第1回受験生の父母懇談会ひろく
- ⑩連載「京の水」——その4〔疏水〕
- ⑫被爆45周年に被爆者援護法の制定を
- ⑬両丹ブロックがタンカー事故で府漁連に見舞い金
- ⑭ゴルフ場開発問題で水と緑を考えるつどい——京都生協南加茂台運営委員会
- ⑯環境保全に牛乳パックのリサイクル——京都生協岡屋東宇治運営委員会
- ⑰気になるこの本『だが草は枯れもせず』

カメラ・ルポ

2日間で5万人が参加。

EXCOOPO KYOTO '90

「京都生協生活文化博」好評のうちに開催

京都生協創立25周年記念の第1回生活文化博＝EXCOOPO KYOTO '90（主催／同実行委員会＝せいきょう虹の会、商業者と消費者の事業提携研究会、京都生協）は2月17・18の両日、伏見区竹田の京都府総合見本市会館パルスプラザで開かれました。参加者は合計5万人でした。

京都生協には毎年約3万人の新しい組合員が入ってきます。いまや全組合員のおよそ半数がここ5年以内に入会した新世代ともいえる人々です。

商品は食品から次第に耐久消費財、そして生活文化の全般へ。安全・安心・使い勝手を直接確かめたいという要求はうずまいています。



高齢者眼科検診を市費でおこなえるように



このEXCOOPO KYOTO '90では、従来の「安全・安心」といった生協イメージに加えて、ファッションやインテリア、電化製品に自動車といった幅広い、これからの生協に期待されるレパートリーが紹介されました。

1階フロアの協賛200業者の展示即売では、従来から安全・安心として定評あるコープブランド商品や、協同組合間協同を中心とした産直商品が飛ぶように売れたほか、京都生協に今後期待が寄せられているレパートリーの高級寝具が評判を呼んだり、自動車の引き合いがあるなど新たな試みが注目を集めていました。

特に、海外直輸入ニット製品などのファッションショーは、生協組合員のお母さんやファミリーがモデルとして登場、拍手かっさいを浴びていました。

2階子どものまちでは、京都で唯一全国でもまれな障害者のみの人形劇団ポーの人形劇、アンデルセンとアンデルセン賞受賞作家の原画展、絵本

の即売などのほか、仕掛け絵本作り（飛び出す絵本。指導／えほん館）や、ハンステックコンテスト（ハンステックはデンマークで作られている玩具。レゴが合成樹脂でできているのにたいして、ハンステックはブナの木でできている。指導／ポネルンド）などのイベントにたくさんの親子が熱中していました。

そのほか、芸大生によるクラシック演奏を聞きながら喫茶・軽食・ビールなどでくつろげるコープサロンも好評でした。

また、18日はメインイベントの「高石ともやとはしろうジョギングコンサート」が人気を集め、2才の幼児から40代のお父さん、お母さんまで全員が完走し、話題を呼びました。

2日間の供給高は、3000万円。生協加入の申し込みが18件ありました。

同実行委員会では、来年も第2回生活文化博を開きたいと語っています。

（京都生協広報担当 赤染益輝）

京都医療生活協同組合では、昨年10月から、「高齢者の眼科検診を市費で行える制度を2年以内に実現しよう」と運動をすすめています。

この運動への賛同と協力をお願いする文書を、京都市老人クラブや医療関係団体など406の団体に送ったところ、打てば響くように116の団体から賛同の回答が返ってきました。この種の回答率としては大変高率であるといえます。

京都医療生協では、1988年から「高齢者の会」や「老後を考える会」と提携して、高齢者の方々の眼科検診を無料で行っています。1988年中に行った51名の高齢者眼科検診の結果は、①早く白内障の手術をしてよく見えるようにとアドバイスした方2名、②白内障はあるがまだ手術を急ぐ必要のない方19名、③緑内障、あるいはその疑いがある治療の必要な方3名、④網膜や視神経、眼圧、血管に病変があり治療の必要な方9名、⑤老眼鏡を作りなおした方がもっと楽に、よく見える方18名、などとなっています。

ここに出てくる緑内障（あおぞこひ）は、大変怖い目の成人病で、わが国をはじめ欧米先進国で失明原因の3位以内に入っています。しかも、この病気は、ごく初期を除いてはいかなる治療によっても、一度失われた視機能（視力、視野）を回復することができません。

この検診結果は、高齢者の眼科検診が、白内障や緑内障の発見と失明予防に役立つだけでなく、健やかな老後のためにいかに重要で、必要なものであるかをはっきりと物語っています。

昨年6月に開かれた医療生協の総代会で、この無料高齢者眼科検診に参加した総代さんから、「自分達は無料で眼科検診が受けられてよかった

が、こんな大事な眼科検診は、すべての高齢者が無料で受けられるよう行政に働きかけてほしい」との意見が出されました。この総代会で、高齢者の眼科検診を市費で行える制度を実現するために、みんなで力を合わせて運動をすすめることが決められました。

よく「目は心の窓」と言われますが、眼科医からみれば「目は病気の窓」だそうです。眼底には動脈や静脈の血管が走っているので、眼底検査でそれらの血管を直接見ることができます。それによって、動脈硬化症や糖尿病、その他肝臓や腎臓などの病気の発見や病後の経過の判定に役立つのです。

この高齢者眼科検診を、既に公費で実施している自治体があります。それは東京都の武蔵野市です。ここでは1972年（昭和47年）に市の制度として発足し、今では内科と連携した理想的な眼科検診制度ができあがっています。京都市でもぜひ実現したいものです。

（京都医療生活協同組合専務理事 田中 弘）



「食生活の自立」めざして

大学生の食生活フォーラムひらく
2月10日●コープ・イン・京都

2月10日、全国大学生協連合会の主催で「大学生の食生活フォーラム」が、コープ・イン・京都でひらかれました。

この「フォーラム」は、88年の食生活シンポジウムで問題提起された大学生の食生活実態の分析にもとづき、その後、各地で食生活改善にむけたいろいろな取り組みやより鮮明になった食の実態などを交流し、今後の課題を考えるために開催されたものです。

参加者は、大学の先生や関係者、病院や保健所の栄養士、地域生協の組合員、食品関連会社、学生、大学生協の職員など、多彩な方面から154名も集まり、大ホールの会場は、満席となりました。

はじめに、長義一・大学生協京都事業連合専務理事のあいさつ。つづいて田中恒子先生（奈良教育大学教授・住居学）の「大学生の食生活の自立」についての記念講演がおこなわれました。田中先生は、「正論では、耳を傾けてくれない学生の現状をどう変えていくのか」を主に、ご自身の授業や研究室でのレポートから、わかりやすく、ユニークに、そして、教育者として“学び”の原点を熱く話され、参加者に感銘を与えました。

「食生活の自立」とは、楽しく食事ができること——食友達をつくることから始まるのではないかと。大学生協らしい拡がりをつくる可能性をあらためて認識したところ打つ講演でした。

このあと、会員からの報告が、5名（学生2名、専従3名）ありました。

まず、栄養士から、89年食生活相談の内容をスライドやOHPを使って、リアルに報告され、大学生協らしい食生活改善のとりくみが各地にひろ



がりつつあることが実感として伝わってきました。

京大生協の学生の報告は、楽しみながら、組合員と専従とのコミュニケーションをすすめているケーキやクッキーづくりの活動。

立命大生協の学生委員会は、店舗委員会から生活委員会に発展したとりくみを報告し、学生委員会活動が、組合員と大学生協とを結ぶ太いパイプ役として定着している歴史の重みを感じさせました。

最後に、会場から、丸谷宣子先生（神戸大）が、食生活調査やシンポジウムを大学生協の社会的役割として高く評価され、また、18年前から立命大生協の栄養相談や全学健康デーに協力している病院の栄養士から、大学生協に期待と励ましの発言があって、5時間にわたっての「フォーラム」を閉会いたしました。

（大学生協京都事業連合総合企画室

管理栄養士 中井邦子）



「大学生の食生活フォーラム」に参加して

森田亜由美

2月10日、コープイン京都でひらかれた食生活フォーラムに参加しました。

奈良教育大学の田中恒子先生の講演の内容は、大変興味深く、健康の話、学校の授業（特に、中・高の家庭科教育の問題点）のことと、さらに自立とは何であるかなど時間の長さを感じさせないほど、楽しく、わかりやすい講演でした。先生の講演のあとは、全国の生協の取り組みが発表されました。立命館大学生協の報告は、元気よく、それまでの堅い雰囲気なごまかせてくれました。京都大学生協の報告は、手作りクッキーやケーキグラタンなどを作り食堂の活性化をはかるというものでした。いかにも大学生が考えた企画らしく、大学生にしか思いつかない企画でした。他の生協の報告は、栄養士さんの頑張っている姿についてのものでした。とくに、食生活相談を通して、学生の栄養面はどうか、今までどのようにしてき

たのかを明るく、熱く話してくれました。全国的に見ても、一人暮らしをしている者は、朝食抜き、栄養のかたよりがはげしいなど同じ傾向があることがわかり、それによって、精神的な病が出てくるということもわかりました。こうして、食生活フォーラムは、私達に多くの事を教えてくれました。5時間という長さを感じさせないほど楽しいものですが、学生の出席が少なく、学生の活動があまり目に見えなかったことが残念でした。

その後の懇親会にはにぎやかに行われ、全く知らなかった人達と和気あいあいと話がすすみ、ついでに食も進み、お腹一杯、心も一杯で満足のいく一日でした。今回のフォーラムは、これから活動をすすめていく上での大きな一歩になったことを実感しました。

（立命大一回生）

ICA大会 92年に東京で開催

「協同組合の基本的価値」テーマに

ICA（国際協同組合同盟）は1992年の大会を東京で開催することになっています。

ICAの大会は3、4年ごとに開催されており、今回は第30回大会にあたります。ICAの大会がヨーロッパ以外の地域で開催されるのは、これが最初のことであり、日本の生協にとっても意義深いものです。

大会はJJC（日本協同組合連絡協議会）が受入機関となり、1992年10月下旬に行われることになっています。JJCとしては、ICAに日本から加盟している全国組織間で連絡調整を行い、大会の基本構想をまとめ、諸準備活動をはじめます。

現在の予定では、大会が92年10月27日から30日までの4日間、ICA中央委員会が10月26日と29日の2日間、各専門委員会が10月20日から26日までの間に開催されることになっています。

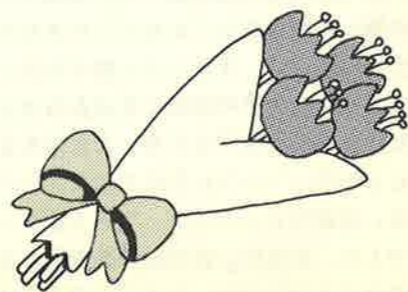
今回の大会でのテーマは、さきのストックホルム大会でのマルカス報告をうけて、ひきつづき「協同組合の基本的価値」について討議をふかめることになっています。マルカス報告では「協同組合の基本的価値」として「組合員参加」「民主主義の徹底」「誠実」「他人への配慮」があげられましたが、現在、ICAでは「協同組合の基本的価値に関する諮問委員会」が設置され、国際的な討議をすすめながら、スウェーデン協同組合研究所のベーク氏が大会にむけて報告をまとめることになっています。この委員会では「協同組合の基本的価値」とあわせて「協同組合原則」についての検討も視野に入れられており、1995年のICA100周年のイギリス大会では、協同組合原則の

改訂がテーマになることも予測されるようです。

日本の生協のなかでも「協同組合の基本的価値」をめぐる討議がはじまっていますが、大会を内容的にも成功させることができるよう、おおいにマルカス報告についての学習や討議を深めあうことがもとめられているといえるでしょう。

京都の生協としても、このようなICA東京大会をどのようにむかえるのか、いまから準備をはじめなければなりません。京都府生協連の第5次中期計画（90年度を起点とする3年間の活動指針）の検討のなかでも、ICA東京大会にむけてのとりくみを、京都の生協のこれからの活動のひとつの柱にすることが提案されています。また、毎年7月の第1土曜日に世界各地で実施される「国際協同組合デー」の行事についても、ぜひとも90年度から京都でも実施できるように準備をすすめることにしています。

「国際化への対応」の必要性がさげばれていますが、ICA東京大会の開催を機に、京都の生協も視野を広げ、世界のさまざまな協同組合関係者との交流や連帯を深めたいものです。（H）



ミニ知識

ICA

国際協同組合加盟。1895年に設立された世界の協同組合の中央機関で、生協、農協、魚協、住宅協同組合、生産協同組合、信用組合などが加盟している。世界70数カ国の協同組合が参加し、国連など多くの国際機関との連携のもとに、発展途上国の協同組合の育成・強化などの役割をはたしてきた。

国際協同組合デー

毎年7月の第1土曜日は国際協同組合デーとされ、全世界の協同組合がその運動の発展をめざして、それにふさわしい各種の行事や活動をくりひろげる機会にしてきた。第1回国際協同組合デーは1923年に国際協同組合同盟のよびかけで実施された。

国際協同組合大会の変遷

回次	年次	開催地	備考
第1回大会	1895	ロンドン	創立大会、参加資格と利潤分配問題で紛糾
第2回大会	1896	パリ	
第3回大会	1897	デルフト	
第4回大会	1900	パリ	
第5回大会	1902	マンチェスター	
第6回大会	1904	ブダペスト	国家の補助論争でドイツ、オーストリアが脱退
第7回大会	1907	クレモナ	
第8回大会	1910	ハンブルグ	東京購買組合共同会日本を代表に参加
第9回大会	1913	グラスゴー	平和決議を行い世界に宣言。1914～20、第1次大戦
第10回大会	1921	バーゼル	憲章を改正しロッヂデール原則を定型化す、ソ連消費者組合加入資格で激論
第11回大会	1924	ゲント	1923年10月産業組合中央会加盟
第12回大会	1927	ストックホルム	
第13回大会	1930	ウィーン	協同組合原則特別委員会の設置
第14回大会	1934	ロンドン	
第15回大会	1937	パリ	協同組合7原則の定型化 1970年日本産業組合中央会脱退
第16回大会	1946	チューリッヒ	
第17回大会	1948	ブラハ	「協同組合と産業国営」を討議
第18回大会	1951	コペンハーゲン	1952年日本生協連、全指連（全中）加盟
第19回大会	1954	パリ	「世界平和に関する決議」採択
第20回大会	1957	ストックホルム	
第21回大会	1960	ローザンヌ	「変容する世界の協同組合」を討議
第22回大会	1963	ボンマス	ソ連「協同組合運動の基本原則改正」提案
第23回大会	1966	ウィーン	新6原則の採択、とくに協同組合間協同の原則を加える
第24回大会	1969	ハンブルグ	「協同組合の民主的運営」を討議
第25回大会	1972	ワルシャワ	「多国籍企業と国際協同組合運動」討議
第26回大会	1976	パリ	「ICAの長期活動計画」主要議題
第27回大会	1980	モスクワ	「西暦2000年の協同組合」討議
第28回大会	1984	ハンブルグ	「世界的諸問題と協同組合」
第29回大会	1988	ストックホルム	「協同組合の基本的価値」

出典 「協同組合の基本的価値」（伊東勇夫）『協同組合基礎理論研究シリーズ第10集』
農林中金研究センター87.10P4に一部加筆
〈「ICAと日本の協同組合運動」（全国農協中央会協同組合図書資料センター）〉

新病棟地下に生協店舗オープン

●府立医大生協

さる1月5日に、大学・附属病院と教職員、患者の大きな期待を担って、生協の運営するコンビニエンスショップとレストランが新築病棟の地階にオープンいたしました。

この新病棟は、京都府、医科大学、附属病院の皆様への永年にわたる努力の賜として、昨年秋に竣工しました。そして、この病棟には高度医療機器の導入などにより、より充実した医療活動ができる機能が整備されています。そして、地階には教職員の福利厚生とともに患者の皆様へのサービス施設として、病院の中とは思えないような立派な購買部とレストランが配置されました。

病院の機能に貢献する施設として

さて、この購買部とレストランは病院内に位置することから、利用者は大学・病院のドクター、看護婦をはじめ患者、家族の方など多様な利用者層となっています。わたしたちは、これらの多様な利用者の方がくつろいで利用できる店、気持ちよく利用できる店をめざして運営しています。

そのことにより、病院が教職員にとって少しで

も働きやすく、また、患者の方々にとって、療養生活のおくりやすい場となることに生協が貢献できると考えています。

今後の課題

わたしたちの店のコンセプトは「リラックス」「リフレッシュ」「コミュニケーション」。利用者が利用するにあたって、ストレスを感じさせない運営、それを目指しています。

しかし、残念ながらその目標とは大きなギャップがあります。そのギャップをうめるために、生協職員の組合員・利用者へのサービスの心をつけること、そして形として表すこと、です。

2つ目には、商品と施設をしっかりと管理運営し、いつも気持ちよく利用していただける環境を維持することです。

他にも課題は多々ありますが、特にこの2点にしっかりとこだわって、「病院内の施設を生協に運営してもらってよかった」とだれからも評価していただけるように頑張りたいと思います。

(京都府立医大・府立大生協専務理事 三宅智巳)

4月22日はアースデー 京都でもネットワーク結成

1970年4月22日にアメリカで行なわれた「アースデー」はアメリカ全土で大きな反響をよびましたが、それから20年目のことし、「地球環境ブーム」がたかまるなかで、アースデー行事が世界中でとりくまれます。日本でも「アースデー1990日本」(代表・野村かつ子ら)、「アースデー1990ネットワーク」(代表・山村恒年ら)などが多彩な行事を企画しています。

このような動きに呼応して、京都においても消費者団体、市民団体、環境保護団体など

が「アースデー1990京都ネットワーク」を結成し、共同でキャンペーンをすすめることになりました。

京都の生協も、京都消費者団体連絡協議会を通じて「アースデー」行事に参加し、環境保全のために可能な行動を広く組合員によびかけることにしています。

京都の生協では、組合員のとりくみとして牛乳パックのリサイクル運動やお買い物袋の節約運動がとりくまれてきましたが、「アースデー」を機会に「環境にやさしい」商品・事業活動をめざして検討をすすめることにしています。

「アースデー1990京都ネットワーク」の問い合わせは
京都消費者団体連絡協議会 ☎251-1001まで

入学時の必要経費は?

●第1回受験生の父母懇談会ひらく



教育に多大な費用がかかることについては社会問題としてすでに様々な方面で取り上げられているところですが、大学生協で実施している「入学時必要経費調査」でも、そのことは明らかになっています。89年4月の調べでは初年度に必要な費用は国立大学に通う人で約80万円、私立大学に下宿通学する場合で220万円にもものぼっています。

この調査ではかかった費用の他にも、下宿捜しや生活の準備など、大学生活を始めるに当たっての様々な経験やアドバイスなどが寄せられており、今後大学生を抱えるご家庭へのアドバイスとしていただければ……と、1月23日コープイン京都で「第1回受験生の父母懇談会」を開催しました。当日は京都生協組合員はじめ、大学生協の取引先、大学関係者など、60名ほどが参加しました。

まず、調査結果から大学入学にかかる費用の総額やその内容、経験者からのアドバイスなどを京都事業連合総合企画室調査担当・井崎より報告。その内容は、大学入学にかかる費用のうち生活用品や住まい捜しなど生活準備のための費用が、昨年より6~14%と大きく伸び、全体を圧迫していることが明らかになっています。

ついで大学生協東京事業連合調査室の佐藤陽子さんから「いま大学生生活は……東京の大学生、この10年」という題で、データからみた学生生活の変化について講演がありました。住まいが下宿からアパート、マンションへと変化するに伴い、キッチン、バス、トイレなどの設備の向上、電子レンジ、クーラー、冷蔵庫など、生活用品が様変わりしている中、学生意識も、生活に快適さを求める傾向が強まっていること、また語学や資格、海外旅行への意欲も強く、それらの費用をアルバイト収入が支えている実態を指摘。

この後、大学生をもつ母親の立場から京都生協組合員の植野君子さん、実際の大学生の立場として大谷大学1年生・海野英顕さんからそれぞれの経験を話していただきました。

今回は初めてということや、開催した時期が遅かったなどの点で、広く知らせるという点では不十分さがありましたが、今後、関係する諸団体への協力呼びかけや事前の準備を強めるなど、第2回の開催に向けて取り組んでいく予定です。

(大学生協京都事業連合総合企画室調査担当 井崎宏子)

京の水

(その4) 疏水

岡 高明



疏水は今年4月に竣工以来100周年を迎えます。それで今回は疏水について考えてみたいと思います。

疏水の沿革

京都の人たちの誇りにしている疏水は、みなさんのよくご存知のように、大津市の琵琶湖取水地点から、左京区川端夷川の鴨川合流点までの間を結ぶ運河です。

この疏水は琵琶湖の取水地点から、京都市の伏見区までの約20kmの流程をもつ「第1疏水」と、これとほぼ同一取水地点から、全線をトンネルで貫いて、蹴上付近で第1疏水と合流する約7.4kmの「第2疏水」、そして蹴上付近から分れて、北白川に達する約3.3kmの「疏水分線」といった三運河からなっています。

第1疏水と疏水分線

明治14年、京都府知事となった北垣国道氏は、明治16年、工学士田邊朔郎氏を疏水工事の主任技師として選びました。

工事は明治18年6月に着手され、多くの困難を克服して同27年9月に完成しました。他方、疏水分線は、第1疏水と同時期に着手され、同23年3月に竣工しました。

この分線には名所旧跡が多く、哲学の道として市民に親しまれている散策道もあります。

インクラインと市電

第1疏水と疏水分線の完成により、疏水を利用する舟のいききもさかんになり、物資の輸送と疏水下りの遊覧船で賑わいました。

疏水の水を動力として発電する日本最初の水力

発電所ができたため、インクライン（舟のケーブル）を動かし、これも日本最初の電車（チンチン電車）を走らせる原動力となりました。

筆者も小学校の遠足で、チンチン電車に乗り、動物園でべんとうを食べ、インクラインを見学したことを思い出します。現在ではチンチン電車も姿を消し、インクラインも現場で形は保存されていますが動いておりません。しかしこの周辺は文化、芸術の施設も多くあり、疏水端の見事な桜などの自然の風物も市民を楽しませてくれます。

第2疏水と上水道

明治23年から10年間に、コレラ、赤痢、腸チフスなどといった伝染病にかかった人が1万人にも達しました。この原因は当時井戸水を飲料水などに使っていたことによるので、上水道を作ることになりました。

明治45年に水道、発電、市電などの事業の一環として第2疏水が作られ、蹴上上水道が完成しました。

現在京都市の水道原水は、第1疏水と第2疏水によって琵琶湖から水をひいています。“琵琶湖がくしゃみをする”と京都の水道は風邪をひく”といわれるほど、両者の間には密接な関係にあります。

琵琶湖の水質は、一時期汚濁が進行していると心配されたことがありましたが、最近では少しおさまって水質は安定しています。それは琵琶湖周辺地域の排水規制強化や、下水道の整備によるものと考えられます。

しかし昭和52年以降連続的に赤潮が発生したり、それより以前から発生しているカビ臭などの異臭

味が水の味を悪くするとの問題がありましたので、取水源である滋賀県では「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」が制定され、また種々の水質保全対策が強化されてきました。

一方、疏水を原水としている京都市でも、大津市の取水口に水質自動監視装置を設置するなど、最新式の分析機器で常時監視を続けています。

幸いにも京都市の水道水（疏水）は、表に示しましたように発ガンの疑いのあるトリハロメタン（THM）始め、各項目とも他の大都市よりずっと数値が低く、水質は清澄です。

ただ水温が上昇してくる4月以降に、琵琶湖に発生したプランクトンによりカビ臭、生ぐさ臭が発生し、ときどき市民を悩ますことがあります。この時期には粉状活性炭を効率よく投入し、生物処理（自然の浄化作用をシステム化したもの）によってこれらの異臭味を除去しています。

疏水を大切に

明治に完成した疏水も、すっかり市民の生活のなかに溶け込んでいます。筆舌につくせぬほどの困難と闘いながらこの偉大な運河を作ってくれた先人たちに感謝するとともに、私たちの手でこの疏水

を守っていききたいものです。

（農学博士・株式会社津テクノリサーチ主幹技師）

〔貴重な資料を提供していただいた京都市水道局水質試験所に感謝します〕

疏水（原水）の水質と京都市の水道水

検査項目	単位	水道法に基づく水質基準	水道水	原水
亜硝酸性窒素	mg/l	10以下	0.000	0.001
硝酸性窒素	〃	〃	0.09	0.18
塩素イオン	〃	200以下	10.6	8.9
過マンガン酸カリウム消費量	〃	10以下	2.0	4.6
一般細菌	個/ml	100以下	0	420
大腸菌群	〃	検出されないこと	検出されない	検出される
シアンイオン	mg/l	検出されないこと	検出されない	検出されない
水銀	〃	検出されないこと	検出されない	検出されない
有機リン	〃	検出されないこと	検出されない	検出されない
銅	〃	1.0以下	0.00	0.00
鉄	〃	0.3以下	0.02	0.23
マンガン	〃	0.3以下	0.00	0.01
亜鉛	〃	1.0以下	0.00	0.01
鉛	〃	0.1以下	0.00	0.00
六価クロム	〃	0.05以下	0.00	0.00
カドミウム	〃	0.01以下	0.00	0.00
セレン	〃	(指導基準値)0.01以下	0.000	0.000
ヒ素	〃	0.05以下	0.00	0.00
フッ素	〃	0.8以下	0.03	0.06
カルシウムマグネシウム等(硬度)	〃	300以下	36	36
蒸発残留物	〃	500以下	56	61
フェノール類	〃	0.005以下	0.000	0.000
陰イオン界面活性剤	〃	0.5以下	0.00	0.00
pH	値	5.8~8.6	6.7	7.4
臭	気	異常でないこと	異常でない	藻・土臭
味	〃	異常でないこと	異常でない	〃
色	度	5以下	0.5	11
濁	度	2以下	0.1	8.3
遊離残留塩素	ppm	0.1以上	0.4	〃
THM(制御目標値)	mg/l	0.1以下	0.013	0.000

(注) 水道水、原水は、昭和61年度の年間平均値。(京都市水道局水質試験所)



被爆45周年に 被爆者援護法の制定を

●「京都の会」が活動開始

広島・長崎に原爆が投下されてから45年目をむかえました。

この被爆45周年にあたる1990年に被爆者援護法を必ず実現しようと、1月18日、「被爆45周年に被爆者援護法を実現する京都の会」が結成されました。この会の結成をよびかけたのは京都府生協連・京都総評・京都原水協・京都反核産業人の会など9団体。

結成総会では「経過報告」「会の申しあわせ」、当面の活動計画、役員体制などを協議決定したあと、「京都府民へのアピール」を採択しました。

「京都の会」では、「援護法制定をもとめる請願署名」を京都府民の1割、26万人を目標にスタートさせるとともに、3月府・市議会への請願、学習教材ブックレットの編集発行などの活動を開始。

2月26日には、コープイン京都で「いまなぜ被爆者援護法なのか 学習のつどい」を開催。「会」の代表委員のひとりである永原誠（京都原水爆被災者懇談会世話人代表）氏が講演し、援護法制定の必要性について学習を深めあいました。永原氏は、被爆者の、いまなお続く「からだ」「くらし」「こころ」の苦しみを通して、政府がとりつづける「受忍」政策の不当さを明らかにするとともに、「過去の補償」「現在の保障」「未来の保証」としての被爆者援護法を必ず実現しようと強調しました。会場からは大学生協組合員らがあいつぎ発言し、決意をかためあいました。

こんご、「会」では署名運動を推進するとともに、賛同者拡大、6月ごろに府民的な大きい企画をもつことなど、積極的に活動をすすめていくことにしています。

なお、「会」の連絡先は京都府生協連、事務局長は伊吹良太郎（京都府生協連副会長）氏となっています。（H）

被爆者援護法のことがよくわかる学習教材



かものがわブックレット

「核時代の人権宣言——被爆者援護法」

- 被爆者援護法への思い（山口勇子）
- ふたたび被爆者をつくらぬために（岩佐幹三）
- ヒバクシャは証言する（三佐尾高行）
- 被爆者援護法Q&A
- いまこそ被爆者援護法を
- 資料

かものがわ出版発行 〈350円〉



伊根町沖タンカー坐礁事故

両丹ブロックが府漁連に カンパで集めた「見舞い金」贈る。

去る1月26日、伊根町カマヤ海岸近くの岩場に坐礁したりベリア船籍の貨物船「マリタイム・ガーデンア号」の燃料用の重油が大量に流出した事故で、大きな被害が発生しました。とくに、丹後地域の漁民の皆さんは、事故の発生から連日重油の回収作業におわれ、いまだに操業出来ない地域も発生しているという深刻な事態です。こうしたなかで、私たち両丹の生協組合員は、「かもめBOX」を中心に京都府漁連の組合員さんと協力しあって産直の取り組みをすすめてきたことや両丹地域の問題でもあることから、「何かお手伝いすることは出来ないか」という思いから組合員さんの発案として、カンパ活動に取り組みました。府漁連本部のある舞鶴では、共同購入の配達時トラックにカンパ箱を積み呼び掛けをすすめる中で、「今お金を持っていないから少し待って」とわざわざ家まで帰ってお金を持ってきてカンパしてくれる組合員さんなど関心の高さが示され、11万4千円もの金額が寄せられました。両丹ブロック全体で20万円の額が寄せられ、3月8日増田事務局長・

吉岡理事さんから組合員さんの代表が、府漁連を訪問して高井会長理事に見舞金を手渡し激励しました。

（京都生協舞鶴支部支部長 船橋進）

府漁連会長の高井さんのお話

今回の事故を通じて、改めて“協同”の素晴らしさを認識しました。

マスコミが“やれ鳥が死んだ！ 貝が死んだ！”と誇大報道するので、マスコミへの抵抗力のない地元漁民も振り回されている状況です。みなさんへお届けする「魚」は、地元漁協で、地元を設置した対策本部で、そして漁連でと3重のチェックを行い充分吟味しています。安心してご利用ください。また、今回の事故を通じて、海をきれいにしようとの運動が地域の漁民や住民の間で大きくなっていくことを切に希望します。

ゴルフ場開発問題で 水と緑を考えるつどい

な が も だ い ●京都生協南加茂台運営委員会(加茂町)

南加茂台運営委員会では、地域の問題を考える取り組みとして、五年前から、当尾の見学を続けています。はじめは、山を削っているから見に行ってみようということで行ったのです。多くの木が切られ、山がなくなり、どうなるかと不安でした。削られた山が又山になったり、違う山が削られたりしているうちに、一昨年には、町の許可した産業廃棄物処理場になっていました。そして、今年度は運営委員だけでなく、南加茂台の組合員にも呼びかけて、産業廃棄物処理場と、ゴルフ場になるかもしれない場所(今、加茂町では、すでに2ヶ所のゴルフ場があり、加えて、2ヶ所のゴルフ

場の建設が予定されています)の見学会を行いました。

見学会の日は、午前中、処理場に行きました。業者の方からくわしい説明をしていただきましたが、こちらからも、疑問や不安の質問が多く出されました。午後からは、浄瑠璃寺の奥にあるゴルフ場予定地の見学を行いました。当尾の区長さんから現地の状況あるいは、ゴルフ場ができた時の水の汚染状況などを聞き、皆、一様のショックを受けました。特に、この予定地の中を流れる、赤田川の下流に加茂町の水源があるため、水道水の汚染はまぬがれません。



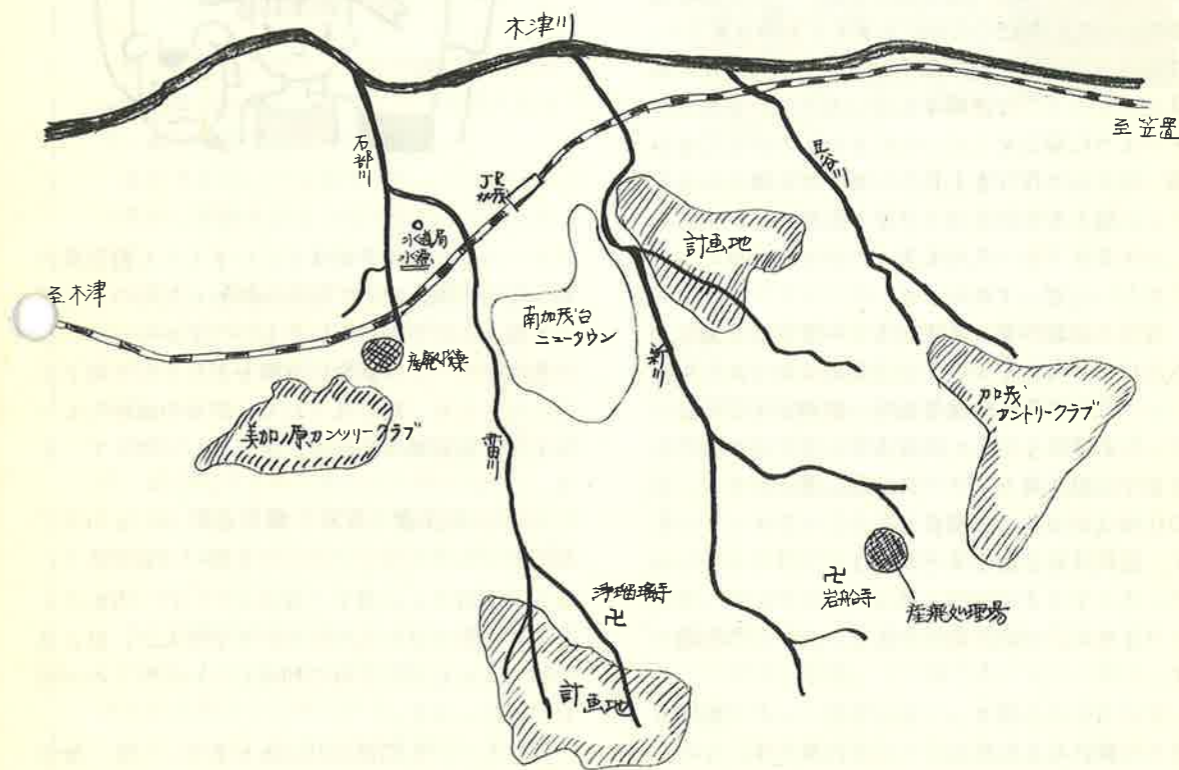
その後、運営委員会で、見学会の感想や、反省が話し合われました。参加者の中から、見学会で終わらせないで、もっと加茂町全体に現状を知らせていく方法はないのか、生協がなんとかしてほしい等の意見が出されました。討議の結果、水と緑を考えるつどいを生協で開催し、加茂町の水と緑を考える口火を切っていくということになりました。

昨年12月の運営委員会で決定し、1月末から2月上旬の開催をめどに、講師の交渉を進めていきました。途中、講師から、会場の後ろからでも良くわかるような地図を用意してほしいという依頼を受けて、1月から準備にとりかかりました。地図は、加茂町の水の流れ処理場、ゴルフ場の関係が、一目でよくわかります。作りながら、新し

く2つのゴルフ場のしめる面積の多さに驚くとともに、問題の深刻さを再び感じさせられました。地図がとても大きいので作業は大変でしたが、納得のいくものができたと思います。

2月4日に、南加茂台の公民館で水と緑を考えるつどいを開催しました。加茂町全体から100名ほどの参加がありました。つどいに参加していただいた方に、水と緑を考える会の結成を訴え、今、準備会が動き出しています。運営委員会の見学会から出た、このままでいいのだろうかという、ひとつの疑問が、加茂町全体の問題として動きはじめています。加茂町のおいしい水をこれからも飲み続けていくために、みんなで考え、守っていかねばならないと思います。

(京都生協組合員 宮本和子)



美しい南山城のまちにも乱開発の波が……
ふるさとの水と緑をいつまでもきれいなままで……

環境保全に 牛乳パックのリサイクル。

●京都生協岡屋東宇治運営委員会

日本では年間32億を越える1リットルパックが販売され、原紙量は85.750トンにも達しています。これは原木にすると、高さ8メートル直径16センチメートルの木が170万本にもなります。これらの木のすべてが北欧やカナダより輸入されているのです。1リットルパックだけでも多大な数ですから世界中で環境問題や資源の上からも関心は高まる一方です。

京都生協宇治支部岡屋東宇治運営委員会では一番身近な牛乳パックの回収を87年度6月より始めました。より多くの皆さんに牛乳パックの回収運動を知っていただくためにスライドも作りました。このスライドは私達京都生協宇治支部岡屋運営委員会がどのような運動をしているのか、皆さんにどのように協力をしていただきたいのかなどをお願いも入れて作りました。いままでも機会があるごとに協力を呼びかけてきましたが、これからもこのスライドを一人でも多くの皆さんに見ていただきたいと思っております。

現在の回収作業は各家庭より一度京都生協宇治支部に集められます。宇治支部に集められた牛乳パックは出荷作業や保管場所の問題がまだ十分でないため運動を始めた岡屋東宇治運営委員会のある東宇治組合員センターの2階に運ばれます。この仕事は岡屋担当の職員さんがして下さっています。出荷はある程度まとまらなくてはできないので、まとまるまで何回も運んでいただかなくてはなりません。回収作業の方法もこれからの課題です。

宇治市中から集まって来る牛乳パックの整理も多大な数になるためたいへんな作業です。今のところ運営委員、協力委員、環境委員が整理をしています。実際には岡屋東宇治運営委員会が整理作業を全般的に行っているのが現状です。組合員セ



ンターの2階の保管場所といましても組合員の集会所の片隅に集めて整理が終わったものから廊下に積み上げて行くというものですからいろいろな集会所やサークル活動に支障をきたしたり廊下が狭くなったり、暗くなったり、防災の面からも一日も早く保管場所の確保が望ましいと考えています。

今年は共作連（共同作業所連絡会）との間で話し合いもされるということを知っています。現在は業者さんに渡すと後はどこへ行くのかどんなものに再生されるのかわかりませんが、組合員に再生されたものを再び利用していただくのが最良だと思います。

残されている問題は沢山あります。一步一步ですがこれからも運動を引継いで発展させていきたいと思っております。

（京都生協組合員 津田貴子）

●気になるこの本

永良巳十次遺作集

『だが草は枯れもせず』

（かもがわ出版 2,060円）

富 沢 実

正直のところ、私は、永良さんについては何も知らなかった。

ただ、日生協の県代表者会議の席で、時に、直情径行とも思えるようなご主張があったりして、私は密かに永良さんに興味をもっていた。

後日、聞いた話で、大阪府連の山上会長さんの恩師だったということで、その人となりの一部を推察することができた。

永良さんは、一本気で、ちょっとやそつとで簡単に妥協するような人物ではなかったようだ。

つまり、裏返しをすれば、政治性に乏しいということであったのかも知れない。

それだけに、明治の気骨を感じさせるものがあった。

永良さんについて、認識の乏しい私の見方は、或は的はずれであるかも知れない。

近頃、激しく動く世界に触発されてか、疾風怒濤（シュトルムウントドラング）が言われ出してきた。

その烈風の中を、かいくぐり、たたかい抜いて来た人士が、めっきり減り、一抹の淋しさを思う今日この頃である。

永良さんは、私より四つ先輩で、1905（明治38年）、日露戦争の終わった年の生れた。

同時代に、世に出た私にも求めざる試練が



あった。治安維持法の洗礼も受けたし、大病も思い、生活保護も受けた。永良さんと同じような経験であったかも知れないが、永良さんの生きざまには及ぶべくもない。

永良さんが検挙された1937（昭和12年）の7月7日には、盧溝橋で日中両軍が衝突して、日中戦争がはじまった。人民戦線事件の第一次検挙もこの年の暮れにあった。その前年には、いわゆる2.26事件があって、世相は、一気にファシズム色を濃くして行った。

ああした時代は、永遠に再現してはならないと、つくづく思う。

遺作集を通して見る永良さんの、溢れんばかりの愛情と信頼。ご兄弟力を合せての執念の結実。

この立派な上梓のなかに、永良さんの脈脈とした気迫が漲っている。（1990.3.20）

（群馬県生協連会長理事）

●インフォメーション●

社会福祉講座Ⅱ 高齢者の福祉と発達保障

4月28日(土)・29日(日)
コープ・イン・京都 他

- 参加費/2,000円
- 定員/200人
- 主催/社会福祉講座実行委員会
(京都府生協連も実行委員に参加)
- 問合せ・申込み
全障研京都支部事務局
☎075(811)4548<洛西保育園気付>

●内容・日程

4月28日(土) 18:00 開会/基調報告「高齢者の福祉と発達保障」
報告者/土掛利博(京都府立大学)
19:00 記念講演「夕映えのときを美しく—高齢者問題と発達保障」
講師 吉村久美子氏
21:00 1925年、大阪生まれ。1967年~1979年、京都府議会議員。著書「夕映えのときを美しく」。現在、特別養護老人ホーム「丹波高原荘」園長。

4月29日(日) 講座と討論 10:00~15:00 コープ・イン・京都周辺会場

10:00~12:00 セッション1 「私たちの高齢化社会論—高齢化社会は本当に危機か—」 講師 川口 弘氏(中央大学名誉教授)	10:00~12:00 セッション2 「高齢者・障害者の医療とリハビリ」 講師 門 祐輔氏(右京病院・医師)
13:00~15:00 セッション3 「地域の中の高齢者問題—実態調査から—」 講師 末川千穂子氏(京都生協) 講師 三塚武男氏(同志社大学教授)	13:00~15:00 セッション4 「高齢障害者の現状をめぐって」 講師 藤井 進氏(聴言センター) 講師 全国老人福祉問題研究会京都支部

京都から世界の仲間へ——われら共通の未来

90アースデー京都集会

4月21日(土)
午後1時30分~4時
本能寺文化会館
(京都市役所南側)

- 記念講演
「今日の環境問題とは何か」
宮本 憲一氏(大阪市立大学教授)
- 主催/京都消費者団体連絡協議会 <参加費300円>

チェルノブイリ4年のつどい

- と き 4月26日(木)
午後1時30分~4時
- ところ 府立勤労会館
- 参加自由/無料
- 第1部/学習会
講師 安齋 育郎氏
- 第2部/第16回原子力発電問題シンポジウム京都実行委員会結成総会
- 主催 日本科学者会議京都支部/京都消費者団体連絡協議会/ピコキュリーの会

エネルギーの明日を考える 現地見学会

- と き 5月17日(木)
- 集 合 午前8時45分/京都駅八条口
バスターミナルに集合
- 参加費 5,000円(昼食代含む)
- 見学先 舞鶴石炭火力発電所建設候補地と宮津エネルギー研究所
- 主 催 京都消費者団体連絡協議会
ピコキュリーの会